

OB会報

第六号

横浜国立大学

ワンダーフォーゲル部

OB会発行

1966. 11. 1

特集

柴田部長を送りかつ迎える

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部初代の部長として、数多き指導をさずかりました柴田先生がこの三月末をもって停年退職、新たに武蔵工業大学教授に就任されました。親父さんを御送りするのはさびしいのですが、先生には

柴田先生とワンゲル

ワンゲルが生まれて三年目の三十四年六月。まだ新人合宿という名もなかった尾瀬ワンダリング。「このワンゲルはじまって以来初めてという

軽々と背負った連中の若い若い顔が先生のにこやかな顔と共に残っている。

そして同年七月に上高地でサマーキャンプが行なわれ、これに先生が参加された。最後はお一人で常念をこえて細野へと下って行かれた。

翌三十五年ワンゲルも一年から四年までそろい、部長をおいてはと学生課のすすめもあり、ワンゲルにもっとも身近かな先生という事で、柴田先生がクローズアップされた。そして七月九日に夏合宿の壮行会を兼ねて柴田先生の部長就任式が行なわれた。(東北合宿)

その秋、車で日本一周をやるうともくろんだ者があり、車の事で先生の元に相談に伺ったことがあった。しかし当時の実力からみてこの案は実行にうつされなかった。三十六年夏合宿壮行会に出

席。(立山合宿)

三十七年夏合宿壮行会、反省会共に出席。(岩手合宿)

そしてその暮の追い出しコンパに先生が初登場。いっしょに騒いで翌日は菩提峠までみんなと共に。この時追い出されたのは三期生。

三十八年新人歓迎コンパに出席。

三十九年夏合宿壮行会に出席。ひきつづき集結地の松江に参加の予定であったが、山陰地方集中豪雨で合宿中止のやむなきに到り、先生の夏合宿参加はお流れ。残念残念。

四十年新人歓迎コンパに出席。新人を前にしてドイツ語を披露。上級生諸君わかったかね。Gesundheit erin, Gesundheit zwel, Gesundheit drei.

同年七月にはOBと共に栗駒山登山。

そして十二月の追コンパに

参加。とうとう先生にも追いつき、出し状が手渡された。

あけて四十一年三月十三日。

OB現役合同の柴田先生歓送会が横浜YMCAで行なわれ、部長時代の先生の労に感謝すると共に今後の御活躍を祈った。

なおこの歓送会は塚原、井田両氏の司会で行なわれ、OB代表松本会長、現役代表白神君の送辞、先生のあいさつにひきつづき記念品として銀製の酒器セットが送られた。乾杯の後の会食の間には、長谷部嬢のぶっつけ本番のオルガン伴奏で歌をほさみながら、先生の部長時代の思い出話がつつられていった。

なお部誌スカイラインの二巻二号、三巻二号及び四巻二号、及びOB会報四号をお持ちであれば併読していただきたい。

最後に柴田先生の別れの言

葉を。

「諸君、がんばろう！」

僕もがんばるよ！」

世の中に山ほど
いいものはない

柴田晴彦

「一人で山に行っても面白くない」とよく人に問われるが、もう年令だから若い人と一緒では人にも迷惑をかけるし自分もつらいから、この頃は高低一人歩きに決めている。勿論遭難などしたくないから計画は人一倍慎重にやる。目的の山を決めてから地図と案内書を持ち出して綿密なプランをあれこれと思いつくらす時は全く以て楽しみである。(中略)

「その年令になって遭難でもしたらみっともないからもういい加減に山登りは止めて下さい」と言う老婆の忠告はあるが、山登り、いや山歩きだけは一生止めないと心に誓っている。「世の中に山ほどいいものはない」からである。

スカイライン vol.2 No.2より

暮坂峠と野反湖の旅

嘉納秀明 (一期)

去る七月二十三、二十四日、二十五日、柴田先生がOB会の名誉会員となられてはじめての山旅であった。

○参加者、柴田先生、嘉納、宮崎、岩村、齋藤(大)、

牧原、織田、部司

○コース

二十三日、上野―中之条―(バス)―沢渡温泉(泊)

二十四日、沢渡温泉―(バス)―大岩下働―(バス)

―暮坂峠―新花敷温泉(泊)

二十五日、新花敷温泉―(バス)―野反湖―湖畔一周―

(バス) 太子―上野

電車は水田の中を走っていた。シラサギが二、三羽舞う。関東平野の夏をよぎって、ぼくらはトネ川を渡り、アズマ川をのぼって上州の山々へと近づいていった。柴田先生とは一年ぶりの山旅だ。昔牧水が歩いたと言う暮坂峠はどんなところか楽しみにおもった。

中之条からはバスで川に沿ってのぼると、雨がすこし降りはじめ、沢渡温泉についたときは本降りとなって来た。宿は急斜面の下にあった。三年も続いた温泉だそうだが、何度かの山津波でこわされ、新しいつくりだった。雨の中

をあたりの散歩に出かけたが、雨はすぐ止んだ。蛇野川のほとりにニジマスの釣堀があり、一しきり釣を楽しんだ。

夜は先生と山の話をした。

越後駒の頂上のすこし手前で疲れてしまい、実は頂上はきわめられなかったこと、苗場はふもとの小屋に泊っていたながら、天気がわるくのほれなかったこと、そう言えば、この旅行もはじめは六月に苗場にゆくことになっていたのだが、雪や天候のことを考え中止したのだった。もっとも予定の日にはやはり山は荒れ遭難者を出したのだからやめておいてよかったのだが。

あとは夜明けまでのトランプ。

翌日はバスでまず大岩までゆき、そこから坂道をのぼって不動まで行った。切り立った大きな岩の崖の下に不動の社があった。

社の先に滝があり、相当高いところから、小さな水滴と落ちて降るように落ちている。

双眼鏡でみると光の中で水滴がキラメキ、ゆるやかに踊った。ふたたびバスで暮坂峠についた。牧水の像があり次のような詩碑が立っていた。

「枯野の旅」

乾きたる
落葉の中に栗の実を
とりどりに

拾うともなく拾いもちて
今日の山路を越えて来ぬ

長かりしけふの山路
楽しかりしけふの山路

残りたる紅葉はてりて
餌に餓うる鷹もぞ啼きし

上野の草津の湯より
沢渡の湯に越ゆる路
名も寂し暮坂峠

深くらは皆でこの詩を何度
か口ずさんだ。峠からはずっ

と小雨の部落に下ってゆく、駒ヶ沢川の谷筋がみわたせた。

ここで昼の食事をとり、山越えて花敷温泉に出ることになった。ホホジロやウグイスがさかんにさえずり、大きくひびく声のアカハラも双眼鏡で姿がよくみえた。山道にかかって、あれはトチの木、こちらはホウの木、マタビの白斑の葉、この奇妙にも可憐な花がオダマキの花などと言いつながら進むうち、木馬道につられて左側にそれてしまったらしく、ひどい急斜面を苦勞して登ることになってしまった。

道はようようみつかり、下りにかかった。牧水の歌にもあるように栗の木が非常に多く秋になれば、きつと沢山の実を拾いながら歩く道だろうとおもわれた。

花敷温泉につく。そこから十分ほど奥に新花敷（尻焼）

温泉がある。道に沿う川の石はすべて鉄サビの赤茶けた色をして魚も住まぬ様にみえる。

この川の下流は須川でこれが吾妻川にそそぐ。昔から死の川と言われ酸性が強く魚も住まず、田畑にも水を引けず困っていたのを最近、中和装置をつくって生き返ったと言う。

新花敷はいろいろの温泉がとかく都市化した中で、山中の温泉の良さを残した温泉と言えらるだろう。夜は又ゆるやかに過ぎていった。

翌日は野反湖に向った。バスから草津白根がよく見え、上天気である。

野反湖はなかなかよいところだった。なんとと言っても人がすくない。深くらはまず弁天山にのぼった。湖面から百五十米位の高さである。眺望がよく、浅間山、白根山、バラボラのある横手山、鉢山、志賀山、岩菅山につらなる山

々、北には苗場を背にする山
なみ、そして眼下に、湖が静
かにながめられた。

湖畔に立つとぼくの影にお
どろいて、沢山のフナの群が
沖に散った。無数のオタマジ
ヤクシが岸边におよいでいた。
なだらかな原がみずうみをと
りまき、わずかにうねった起
伏をもっていた。空をうつし
た水と対岸の草原がのどかで
美しかった。

ニッコウキスゲとアヤメの
点々と咲いている岸边をゆっ
くりとあるいた。

草原で食事になった。先生
は「あゝ、いいね」とおっし
やり、「長かりし今日の山路
楽しかりし今日の山路」と言
われて湖面をみて笑っておら
れた。「終」

柴田先生

米屋勝利(題)

昨年二月十四日二十六才の

育二才の私が初めて結婚式の
主役を相つとめました。その
際柴田先生には奥様が御病
気あがりの身にもかかわらず、

無理にも仲人を御願ひ致しま
した。全く感謝の念で一杯で
した。結婚式迄に二、三回先
生宅に打ち合わせにゆく機会
がありましたがその時次から
次へと尽きることなく出てく
る先生の山の経験談はワイフ
も喜んで聞いており、本当に
楽しいものでした。しかしと
くに奥様との最近の北海道旅
行の話の中で、利尻島ゆきの
こと、奥様のお尻をおし上げ
て高山植物を見せてあげたと
いう先生の愛妻ぶりをきいた
時は本当に感激してしまいま
した。その時私も先生を手本
として先生に負けない様大い
にがんばろうと心に大それた
約束をしたものでした。
そしてかえりぎわに先生は
「君夫婦というものは年をと

ればとってまた別の良さが味
わえるものだよ。」とおっし
やいました。先生のお宅にう

かがいますと、本当に心暖ま
る思いが致します。

昭和四十一年春季OB総会報告

どうも報告がおそくなりま
して申訳けございません。以
下は今年の春に横浜Y M C A

がこないという二つの基準
できめました。

会議室にて行なわれたOB総
会の報告であります。この前

第一期 小野、佐藤、吉田

の申し合わせ通り、つまらぬ
会議はてっとり早く切りあげ

第二期 宮崎

て、その後に楽しくやりました
ようという趣旨にそって行な

第三期、四、五期はありませ
ん。尚、藤岡氏以外は本人

われしました。

の意志により準会員となり
ました。

一、新人会員の件

二、名譽会員の件

卒業予定者十八名 全員入
会承認

柴田先生を満場一致で名譽
会員に推せん致しました。

三、準会員の件

四、新人会員に部則説明
省略

事務局の指名及び本人の意
志表示という基準にそって

兵山小屋の件

きめました。事務局の指名
は部費の一年以上の滞納、

OBと現役との間に意見の
くい違いが見られますので、

これ迄の諸通知に全く返事

今後機会ある毎に討論を行

会員状況 (昭和41年9月15日現在)

	1期	2	3	4	5	6	
正会員	5	12	14	13	15	16	75
西会員	1	0	3	1	6	2	13
準会員	6	0	1	0	0	0	7
家族会員	0	0	0	1	0	0	1
休会員	0	0	1	0	0	0	1
計	12	12	19	15	21	18	97

ない、くい違いをただすことと致しました。又、過去のOB総会で、山小屋建設についての決議がなされているにもかかわらず、OB全体の意思が個々に確認されていないため、現在準備活動は停滞している状態です。すでに山小屋建設の基本線は確立されており事務的な点で渋滞していると判断されますので、今後の討論は事務局にて行ない、結果は総会にて報告すること

致しました。従って、本件に対し関心をお持ちの方は、直接事務局会に出席されるか、又は事務局員に個人的にでも結構ですからぜひ御意見をお寄せ下さるようお願い申し上げます。

六、事務局員の件
塚原、郡司両氏を事務局員として推せんし承認されました。

(四期 跡部)

遭難対策委員会報告

OB遭難対策委員 井田貞司 (二期)

一、遭難対策委員会の経緯

OB、現役による遭難対策委員会が発足して昨年十二月十八日に第一回の打合わせが行なわれて以来、計四回の会合がもたれ、ワンゲルの遭難対策について検討が加えられてきたが、その成果のほどについては特筆すべきものがないのは、はなはだ残念である。

遭難対策は大別して、実際に遭難が発生した場合の(一)救援対策と、遭難の発生を防止するための(二)予防対策に分けることができる。勿論、人命の尊さを考えれば、予防対策を充実させることがより根本的な問題の解決に資することは言うまでもないが、人命にかかわ

る事故の收拾が敏速に行なわれるような救援対策の体制を整えて置くこともまた肝要であろう。いずれにしても、遭難対策全般の根底にはきわめて根深い癌がある。それはワンゲルが宿命的にもつその性格のあい昧さであり、ワンゲルとは？という基本的定義についてだれもこれと確信のもてる一致した概念を与えることができない混沌とでも言えようか。

その点についての解明を果さない限り、一つの方針に買ぬかれた科学的な結論を得ることは到底不可能であらう。その問題の大きさに辟易してとりあえず、特別関係のなさそうな部分か

ら手がけたが故に、特筆すべき成果が未だに得られない由縁である。

二、救援対策の概要

救援対策の主な検討項目は次の二点である。

(一) 救援対策本部組織図の作成

(二) 部員間連絡機関の整備

(一)は、遭難が発生した場合、組織図に基づいて様々の活動を円滑に行なおうとするものである。

このような組織の遭難対策本部が設置されるのは規模のうえからも社会的にも非常に大きな遭難の場合のみであって、その他の場合には当事者の判断によって適切な措置が講じられるのが望ましい。そしてこの組織図における役職、各係などには適任者の具体的人名をあてはめた形で組織図を完成させるよう準備が完了し

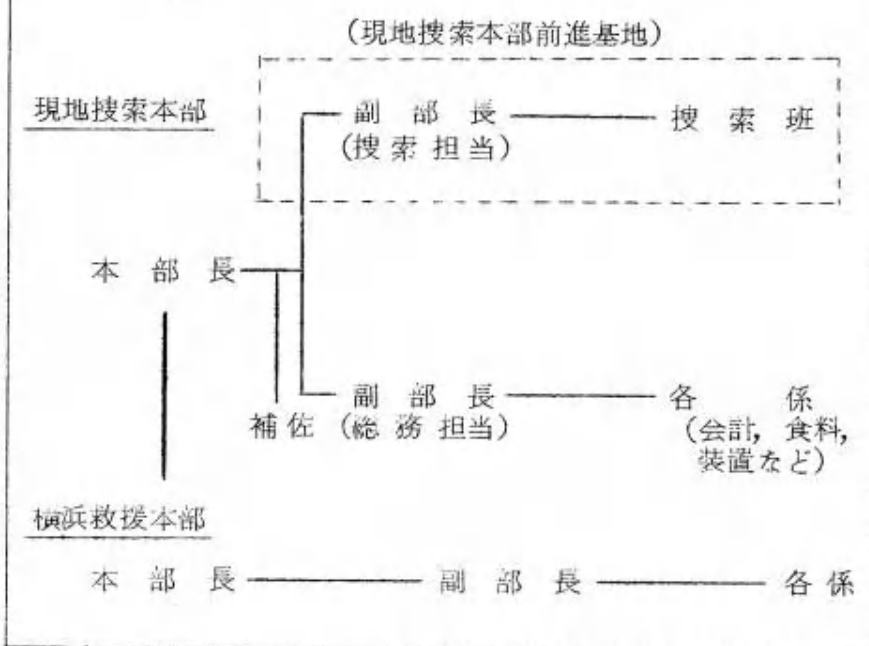
ている。

(二)は遭難が発生した場合関係者に対して迅速に連絡が行なわれるよう、連絡網の整備、山行計画表の部室常置及び学生課への提出、留守番本部の設置などを決定

している。この他にはワングル内部における連絡網の他にも、地元山岳関係団体、他大学のワングルなどとの横の交流も盛んにして他団体の体験を参考にして遭難発生時の救援活動を誤らし

組織図は次のとおり。

遭難対策本部組織図 (一部省略)



めないようにするよう心がける必要もあろう。また、遭難救援費用の面から、山岳保険についても検討をした。以前にも調査したこともあるが、今回の結論は現在の夏期を中心とした部活動を中心とした部活動、経済的負担が増大するばかりで、遭難費用調達という利点があるとは考えられない。ただ冬期の活動については、ワングリング審査会が指定した山行に山岳保険を付保するよう審査会が勧告できるような制度を設けることなど考えている。

三、予防対策の概要

遭難予防対策は遭難の発生を防止するための諸方策であるから広範囲な要件を包括している。すなわち、

- (一) 基本的行動技術の修得
- (二) 補足的諸技術の修得
- (三) ワングリング審査会によ

る危険ワンダリングの防
止
四) リーダーの値と遭難の関
係について

(五) トレーニングによる体力
の養生

(六) 医療管理

(七) 遭難対策規約の制定(暫
定的規約は七月中旬に制
定)

などである。これらのことは
部活動への参加の必要条件と
してある程度体系的に実施さ
れてきたし、また現在でも実
施されている。ただ、それは
多分に思いつきであり、体験
的であって、ワングルの目的
に照らした本値論としての把
握に欠けていたきらいがない
とはいえない。したがって、
諸程の既約規則を科学的、体
系的、思想的に再検討してみ
ようというのが基本構想なの
であるが、未検討に終わって
いる。部の本値を論ずることは
我々の権限外である。しかし

遭難予防対策を考えるとき、
本値論から離れることはでき
ない。そこに問題解明のむづ
かしさがある。

北から

|| 地方近況 ||

南から

☆: 仕事一途に暮していたら
体が自由にならず山歩きもも
う四年ブランクができてしま
いました。最近健康保持の
ため運動をと心がけています
が下腹をおさえるのが精一杯
です。(一期 望月)

☆: 女学校へ週三日行って高
二の英文法を十時間受持って
います。テストテストで私の
方までフウフウいっています。
近頃は山へは行かずもっぱら
「旅」の本を読んでいます。
(四期 横山一旧姓広瀬)

☆: 今年山へ行こうと張切
っています。医者からカッ
ケだなどといわれ、ヒザがガ

クガクしています。登れます
かどうか。(五期 諸角)

☆: 今年こそは……山へ。す
っかり山にもごぶさたです。
海の空気を胸いっぱいすって
今年こそは水泳に精を出そう
……か?
目下学期末の採点中です。

(四期 原)
☆: 八月に後立山縦走の予定。
最近山に行っては石を集めて
います。目下、山中に土地を
手に入れて one path を
募集中。(五期 高橋 哲)

☆: 毎日毎日働かされていま
す。四月上旬、跡部、谷上、
郡司が来油。小生のボンコツ
カーで奈良、琵琶湖等をサー
ビス。スピード気狂いがいて
ボンコツカーのメーターぎり
ぎりまで出すので、命が縮ま
る思いでした。

(四期 斎藤 貞)
☆: 無事休憩。この夏には立
山、黒部切りの雲の平を歩い

て来ようと考えています。
(二期 荻野)

☆: 五月の連休に久しぶりに
出かけ高峰を歩こうとしまし
たが、残雪に足をとられて打
ボクし、そうそうに引きあげ
るといふ恥しさ。寄る年波と
ともにワングル魂も失せてい
くようです。(二期 岩上)

☆: 現在三年生を担当してい
ます。今までの野ばなしの子供
たちと違って親がかりの子供
ですから、ある面では楽です。

先日夏山の気象講座がある
義務から受けましたが、スラ
イドで雪崩で失くなった方が
ほり起こされたのを見てショ
ックを受けました。夏山に行
く気もうすれるほどでした。
(二期 岩村)

☆: もう一年以上山へ出かけ
ていないのでどくか歩いて見
ようと思っています。五月の
連休には今研究室に來ている
ウィーン大出の変な外人と研

究室の者たちで自動車で東北

を大体一周して来ました。そ

れは八甲田十和田と雪をなが

め弘前で夜桜を見物した約五

日でした。(四期 永田)

☆：最近仕事一筋の毎日

す。六月末に東京に出張しま

した。初日は台風四号にやら

れ、最終日はビートルズ台風

の交通ラッシュにやられて、

ほうほうのいで逃げ帰りま

した。(四期 斎藤 伸)

☆：只今担当しております製

品が順調に行かないため四苦

八苦の忙しい毎日です。先日

息ぬきにと久しぶりで尾瀬へ

行って来ました。幸い快晴

に恵まれ、楽しい山行でした。

(四期 谷上)

☆：医療社会事業つまりメデ

イカル。ソーシャル。ワーカー

と精神衛生相談員をしています。

精神衛生の相談にのつ

たり、精神障害者の家庭訪問

が主な仕事ですが、今はひま

で毎日退屈しています。

(六期 宮城)

☆：夏休みといえども毎日朝

早くから夜遅くまで学校でお

勉強(?)をしています。学

生時代よりヒマがないはずな

のにより多くのことを消化し

ていけるのはどういうことで

しょう。毎日プールに飛び込

むのでやっと本来の私らしい

色になりました。

(六期 山本)

☆：留守番がいなくなったの

で山へ行くことができず残念

です。どなたか留守番をひき

受けて下さる方はいらっしや

らないでしょうか?

(五期 須賀)

関西一日ドライブ

● 谷口俊三 (四期)

「新幹線は速いと思った」。
ついさっきまで東京付近で仕
事をしていた我々三人(跡部、

郡司、谷上)は、もう名古屋

の駅にいた。四月二日(土)午後

八時頃であった。

新幹線からみると、うすぎ

たなく見える近鉄の急行に乗

って、三十分、目指す四日市

駅に着いた。すぐ迎えに来て

いた車に乗って四日市郊外の

別荘地へ着いた。別荘は鉄筋

の白亜の三階建て。さてこれ

から美しい海と松林を見なが

ら一週間の疲れをいやそうと

いうことになる。といえは実

に優雅な生活であるが、実は

これは四月の初めに、三油化

斎藤貞夫氏の御招待にあずか

った我々三人が、貞夫を含め

四人で、関西ドライブをした

時の幕あけの一場面である。

もち論、別荘とは三油化海の

家。車とは貞夫氏愛用のブル

ード、ツートンカラーデ

ラックスであり、迎いの運転

手は貞夫氏その人である。

その夜は久しぶりに会った

金田氏や向井氏を交じえて、

遅くまで楽しい雑談で過とし

た。途中諸角氏が、会社の旅

行で四日市まで来ているとか

で電話があったそうだが、例

によって前後不覚に陥ってい

て、来られないとの事、せつ

かくの機会に会うことができ

なかった。

翌朝、金田氏は釣りに行く

ので、まだ暗いうちに出かけ

た。今日は快晴、いよいよ本

来の目的である関西ドライブ

が始まる。興味のある人は地

図を開けて下さい。コースを

説明致します。

四日市から国道一号線を過

って亀山へ、亀山から現在工

事中の名阪高速道に入り、天

埋市へ、それから北上して奈

良、京都。名神高速道を大津

へ、大津から琵琶湖大橋を渡

って再び名神高速道に入り名

古屋まで全線三〇〇余キロの

コースである。車はブルーバ

ード、ドライバー兼乗客は、齋藤貞夫、跡部一博、郡司直樹、それと私の、残念ながら男性ばかりの四人。

車は別荘を後に快音を響びかせ？朝の国道一号を走る。

この道は私は一昨年走っているものでなんとなく懐しい。

亀山のインターチェンジでまだ片側しか開通していない名阪高速道路に入る。結構混んでいる。ハンドルは私が握っている。関東よりもなんとなく、せっかち、の人が多いらしく、無理に追越しをするやつが多い。郷に入っては郷に従えと、こっちも追越しをかける。片側とはいえ、全面舗装のハイウエー、回りの景色なんぞ楽しんでるうちに天理市に入った。直ちに北上し奈良へ到着。四月の日曜日

で快晴と絶好の行楽日和のため人の出が多いこと。しかしなんととっても奈良、寺あり、

芝生あり、鹿が遊び、なんとなくのんびりとした所である。

楽しそうなアベックや家族づれを横目で見ながら男四人、フラフラと歩いて回った。近ごろの鹿はすれているのか、せんべい等、見せても決して食いに来ない。鼻面へ持って行ってやると、いやいや食ってやると言わぬばかりに、ま

ずそうに食う。実に面白くない。車は、京都を素通りし、大津のインターチェンジから琵琶湖へ出る。琵琶湖大橋は確かに大きくまた美しい。ゆ

っくりしているうちに、時計はもう三時をだいぶまわっている。残るコースもあと名神高速道を名古屋へと向うだけとなった。大橋を渡り、名神

高速道へ入る。連続九〇Km位走ったが、単調で二〇分も走るとあきてしまう。名古屋駅へ七時頃到着。貞夫氏と名残

りを惜しむべき、テレビ塔へ

登ったり、夕食をとったり。

貞夫氏も相変らず元気であったが、そろそろかな、と思われる節もあったような気がするが……

我々は名古屋から、また新幹線の人となった。小田原で跡部氏と私が降り、郡司氏と別れた。私はそこで跡部氏とも別れ、足柄の山奥の社員アパートへ電車で乗って無事降り着いた。久し振りで同期の友達と、関西ドライブを、それも一日で十分に楽しんで来たことを思い感慨深い。交通

が便利になり、関西も決して遠くはない。それにしても名古屋を二十時に発ち、足柄山奥のアパートに、二時間後の二十二時に着いていた事実からして、新幹線は速いと思

った。

以上

結婚おめでとう々

☆新郎 水田明彦 (四期)

新婦 永田多恵子 (旧姓 安部 四期)

とき 昭和四十一年三月二十日

ところ 九段会館

なれそめその他詳細は略す。

沢山の御祝詞ありがとうございました。二人にかわりまして厚く御礼申し上げます。

☆新郎 嘉納秀明 (二期)

新婦 嘉納朋子 (旧姓木村)

とき 昭和四十一年十一月六日

ところ 大磯滄浪閣

いや驚きました。昭和の時代には結婚などありえないと思

われていた嘉納先生もやはり人の子でした。この会報をみて信じられる人が何人いるでしょう

か。新婦は三つ年下の幼なじみの古風豊かな感じの人だそう

です。嘉納先生の心を揺がす様な人、是非とも御尊顔を拝したいものです

ね。

☆新婦 亀井良英 (五期)

新婦 亀井昭子 (旧姓)

片野 五期)

とき 昭和四十一年十一月六日

ところ 銀座東急ホテル

知る人ぞ知るワングルのカ
ツブル第二号、或る人は「い
つだかの追い出しコンバの時
丹沢の山からおりてきた彼氏
と彼女をみつめてハーンと
感じた。」そうです。新郎は
カメラ会社の技術者、新婦は
美術科出身、写真と絵画とは
最適の組み合わせですね。



☆吉田光志 (一期)

ベビー名前：果生(ミオ)

続柄 長女

生年月日： .

昭和四十一年二月二十八日

「所感」 後述

☆米屋勝利 (二期)

ベビー名前：利之

続柄 長男

生年月日： .

昭和四十一年二月十六日

「所感」

人生の一大義務をはたした
なんだか大変な確な、それで
いてなんとなく快い気持です。
只今七ヶ月半、親に似ず丸々
と太って体重十キログラム。
保健所の話では一才二ヶ月の
体重とか、驚き入る次第です。
それにしても毎日利之に引き
廻わされてまさに貧乏暇なし
です。一才半にでもなれば立
山か穂高を眺めさせてやろう
と思います。本心をあかせば
親の方が行きたい為です。赤
んぼは、ブーブー、パーバ
ー、……位しかしやべり
ませんからね、○○にゆき
たい、なんぞとは申しません。

二世の記

吉田光志(二期)

論語、唐詩選、バイブル、

etcと名前を考えるのに生まれ
てから十日間もかかり、苦勞
したのは製造するより名付け
だった。姓名判断で、悪いと
いうより良いと言われた方が
いいに越したことはないと思
い、その結果、バイブルから
果生(ミオ)と決めた。

二月二十八日 丙午の午の
日、どうだ、大丈夫かしっか
りもい、がまんせいと病院へ
行き、生まれた時には、体重
が少なくわずかの差で、未成
熟児の域をまぬがれたが、七
ヶ月の今では、身長が九ヶ月
ぶん、体重は標準と親に似て
大分スマートになってきた。
手足、身体の動きは超活潑、
狭い家の中を手当り次第なめ
廻しつつ、はいずり、ひっく
り返っている。鏡を見せると
奇声を発しつつ、両手を頭の
うしろへもっていき、両足で
ビヨンビヨンはね上っている。

この動作が果して何を意味

するのかわかぬ、不可解である
が、恐らく、鏡の中に、原始
同類人を見出し、彼等同士の
対話を楽しんでるのじやなか
ろうかと思ったりしている。
生まれた当座は、我が分身
なりとは、どうしてもピンと
こなかつたが、措置動作が人
間らしくなるに従い、ははあ、
これが我が子供であるなと感
じ入ってる次第である。

こんな人間に成長して欲し
いという理想像はあるが、今
から親父風を吹かすのも、収
入の点で恥ずかしいので、現
在では、どんな人間になるの
かなと想像してニヤニヤして
いる。果生は女である。

生活の中で

○……ある現役の女の子がい
ってました。去年の新人歓迎
の時はあの人の顔はまっくら
で私の方が白かったのに、今

年は逆で私の方が黒いの。シ
ヨックだわあ。それにしても
勤めるとあんなに色が白くな
るのかしらねえ。

○……カノウ氏が四日市より
もどって以来、カネダ氏、サ
ダ氏、ムカイ氏、コンドウ氏
と毎年カノウ先生の声がか
りて油化に送りこんでいた工
学部もとうとう今年はソッポ
をむいた。四人そろってはい
れまでと思いきや、今年経
済から油化に名のりが上った。
はてさてこの次はどうなりま
すことやら。

○……今年も四月はほとんど
夏合宿に参加しないとか。い
つの間にかワンゲルは三年と
いう風習になった感じ。そう
いう連中がOBになってきた
ら月例などで大いにしごこ
よ。

○……今年のワンダリングは
雨ばかり。自分が行けば絶対
晴れるという御方、今度つれ

てって下さいよ。

○……現役は今年も夏合宿を
例年のような形態で行なう。

そして例年どおり合宿前の要
項つくりにいそがしい。なぜ
合宿をやるのかという点はヨ
コにおいといて、何を合宿で
やろうかといきまいてる。あ
るリーダーの事を普段突飛な
事を言うから少し毛色のかわ
った合宿をやるかと思つたと
つゝいてみたら、これがワン
ゲルの限界なんだという声か
かえてきた。行く前には分
厚い要項が出来るけど、帰っ
たあとのしめくりは今年も
形にはなってくれないんじや
なからうか。そして今年の合
宿も行った本人の中にだけ自
分がそこに行つたんだとい
う形でしか残らないのではない
だろうか。この十年、言つて
みれば同じくりかえしだ。十
年史を作ろうつたって過去の
記録などありはしない。まあ

主観でまとめ上げる以外なさ
そうですね。

○……みんな卒業してもワン
ゲル時代と同じ気持で山とい
うものをうけとめていると思
いこみ、自分もある出舎でそ
んな生活をしていたあるOB
が都会にもどってきて、昔の
仲間と接して驚いた。自分で
メシをつくるような山小屋に
は行きたくないとか、もうキ
スリングなんぞ背負う気なし
とかいう言葉が帰ってきたか
らである。そこでボヤクこと
ボヤクこと。いったい何の為
にワンゲルをやつたのかと。
まるで今年卒業したみたいな
フアイト。こんなOB一般と
少々ちがう考えを持つ彼の、
五円ハガキを入れておけば二
円切手をはってポストに入れ
てくれるだろうという考えは
ものの見事に裏切られた。そ
こでまたボヤいてる。ワンゲ
ルを出ていったいどんな社会

人になっているんだろうと。

○……太陽や月が水平線に近
づくとき大きくみえるというこ
とは、近くにある星どうしは
その間かくが拡がって見える
ということにならないのかね。

○……今年は大学院に宮崎氏、
久野氏、小木曾氏が入学。工
学部もOBが四人そろい、事
務局の手もふえ、おかげで嘉
納氏の手間が大部はふけた。
ところが事務局会の方もはぶ
きすぎて今のところとりたて
て報告することは何もない。

(三期 井上)

月例ワンダリング

☆七月二十三日～二十四日

暮坂峠、野反湖

嘉納、柴田先生、宮崎

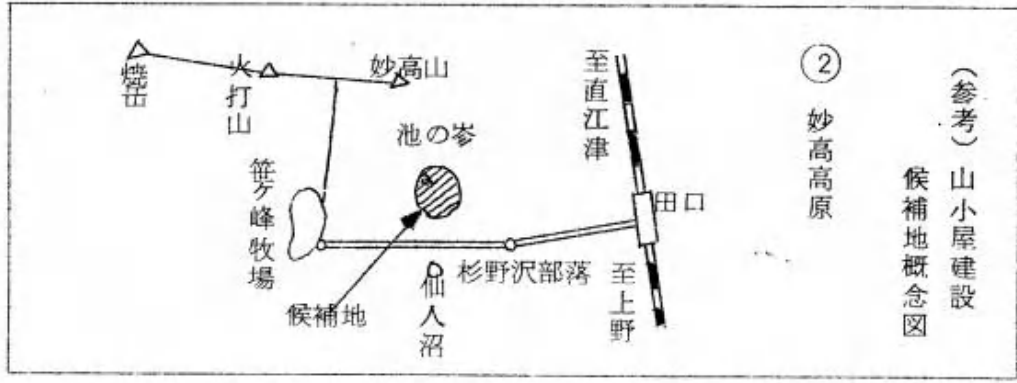
岩村、齋藤、牧原、織

田、郡司

上野、中之条、沢渡温泉

|| 暮坂峠 | 新花敷温泉 ||

野反湖 太子ま上野
 ☆八月十四日 江の島、片瀬
 海岸



(参考) 山小屋建設
 候補地概念図

上宮崎、嘉納、吉野、米屋、
 藤林夫妻、白井、井上、
 江崎、諸節、郡司、時田、
 所、

海水浴を楽しみました。

☆十月二十三日 棒ノ折山

上宮崎、吉野、塚原、井上

立川ま、青梅線川井

百軒茶屋 一 棒ノ折山

一 名栗ラジウム鉱泉

飯能ま池袋

新 会 員

今年三月の総会にて次の諸氏が会員とられました。

秋山 勉 (北海道拓殖銀行)

江角喜一 (横滨国大)

蓮尾尚志 (東綿商事)

近藤博昭 (三菱油化)

清水宣次郎 (阪大大学院)

密島英二 (富士通)

久野秀晴 (横国大大学院)

原稿募集

近況、トピック、雑感
 などなんでも結構ですの
 で編集係まで御報せ下さい。

菅谷光雄 (日本ビクター)

岡田光豊 (関東海運局)

岡町美奈子 (南台小)

原 隆 (平沼小)

長谷部君子 (末吉中)

宮城素子 (大和保健所)

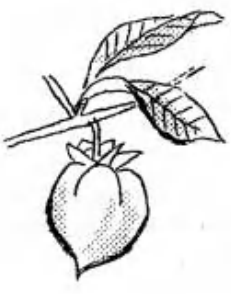
岡本次郎 (東北大大学院)

山本紀子 (日野小)

古荘敏子 (山下小)

奥野雅宏 (浜松工高)

小木曾克彦 (横国大大学院)



☆編集後記☆

交通戦争はますます激
 化して、今年は史上最高
 の交通犠牲者を出してお
 ります。ワングルのOB
 諸氏にも我も我もと教習
 所に殺到し、マイカ！族
 に仲間入りしております。
 今まで歩く事を商売道
 具としておりましたもの
 ですから少し足を休めな
 くてはの親心かもしれま
 せんね。まあ遭難対策委
 員会は交通遭難にも目を
 向ける必要があると思わ
 れます。

OB会報第六号

編集責任者 米屋 勝利

発行責任者 松本 正雄

印刷 板橋 膳 写 堂

電話五〇一五八四七